

令和4年度 年間授業計画【 国語 】

教 科 名	国語
学 年 (年間授業時数)	第1学年(140時間)
使用教科書 (出版社)	『国語1』(光村図書)
使用副教材 (出版社)	・国語活用資料集 東京都版(新学社)・つまずかない!文法の学習(新学社) ・よくわかる国語の学習1(明治図書)・単元別漢字ノート(新学社) ・積み上げ(明治図書)
教科担当者氏名	藤谷 裕也 勝野 美花

1 教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

(1)自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。

(2)必要な材料をもとにして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。

(3)様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

2 観点別学習状況の評価

観 点	評 価 規 準
主体的に取り組む態度	国語に対する関心を深め、国語を尊重し、進んで表現したり理解したりするとともに、伝えあおうとする。
思考・判断・表現	・自分で考えを豊かにしたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。 ・自分の考えを豊かにしたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。 ・目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。
知識・技能	表現と理解に役立てるための音声、語句、語彙、文法、漢字等について理解し、知識を身につけている。書写では、文字を正しく整えて早く書く。

3 評価方法(評価場面および評価資料)と評価の観点

各教科4つから5つの観点について、その習得状況をA・B・Cの3段階で評価する。学級や学年の順位で評価するのではなく、教科で設定した目標やねらいを生徒一人ひとりがどこまで達成できているかを評価する

	観察法	作品法	テスト法	自己・相互評価法
評価方法	・授業への取り組み方 ・学習活動 ・学習準備物(忘れ物) ・発言・質問 ・発表の様子	・授業ノート ・ワークシート ・提出物(書き初め、俳句等の作品・ワークなど) ・作文	・授業内テスト ・定期考査	・自己評価シート ・相互評価シート
評価の観点	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に取り組む態度</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考・判断・表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知識・技能</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に取り組む態度</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考・判断・表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知識・技能</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に取り組む態度</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考・判断・表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知識・技能</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に取り組む態度</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考・判断・表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知識・技能</div>

4 年間学習計画

期	月	週	単元・教材名	学習内容	学習のポイント
前期	4	1	・言葉に出会うために(3)	・国語の基本事項	・国語学習における基本事項を学習する。
		2	・「シュンシュン」(4)	・物語	・登場人物の気持ちの変化を他の人物との関係の中で読み取る
		3	・「わかりやすく説明しよう」(5)	・書くこと	・観点を立てて情報を集め、整理する
		4			
	5	5	・情報を的確に聞き取るう(1)	・情報の聞き取り	・聞き取りメモの取り方を学習する
		6	・漢字1(1)	・漢字の組み立てと部首	・漢字がどのように組み立てられているか、部首名などを学習する。
		7	・「ダイコンは大きな根？」(3)	・説明	・身近なものについて説明された文章を読み、使われている言葉の意味や内容をとらえる。
		8	・「ちょっと立ち止まって」(5)	・説明	・段落と段落の関係に注意しながら、文章の構成を読み取る。
		9			
	6	10	・「好きなもの」を紹介しよう(6)	・話す聞く	・聞き手にわかりやすいスピーチをする
		11			
		12	・言葉1(1)	・話し言葉と書き言葉	・同じ内容でも、音声で伝える場合と文字で伝える場合とで違いがあることを理解し使い分けられるようにする。
	7	13	・「詩の世界」(2)	・詩	・豊かな表現に触れ、言葉のもつ力を考える。
		14	・言葉を集めよう(1)	・作文	・様々な言葉の知識を持つとともに、自在にそれを引き出せるように練習する。
		15	・「比喻で広がる言葉の世界」(2)	・随筆	・言葉と人間の考えについて考えを深める。
		16	・「読書を楽しむ」(3)	・物語、読書活動	・さまざまな作品を読み、ものの見方や考え方を広げる。
		17	・書写(5)	・毛筆	・文字の整え方を理解して書く。
後期	9	18	・書写(2)	・硬筆	・名文を書き、字体、バランスを学習する。
		19	「星の花が降るころに」(6)	・物語	・登場人物の気持ちや行動、場面展開、情景描写などに注意して作品を読み取る。
		20	「大人になれなかった弟たちに……」(5)	・物語	・時代や状況の中で自分を見つめ、生き方を深めていくことの大切さを考える。
		21	・文法1(5)	・言葉の単位	・文や語句の区切りについて学習する。
	10	22	・言葉2(1)	・指示する語句と接続する語句	・文を読むときに重要な指示する語句と接続する語句について学習する。
		23			
		24	『「言葉」をもつ鳥、シジューウカラ』(9)	・記録、報告	・図表の役割に注意しながら、事実とそれにもとづく筆者の考えを読み分ける。調べたことを正確に報告する。
		25	・大阿蘇(1)	・詩	・表現の特徴を捉え、音読する。
		26	・「古典の世界」(1)	・古文・音読	・「いろは歌」「竹取物語」や故事成語など古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える。
	11	27	・「蓬萊の玉の枝」(4)	・古典・解説	
		28	・「今に生きる言葉」(4)	・古文	
		29	「『不便』の価値を見つめ直す」(6)	・漢文	
	12	30	・「『不便』の価値を見つめ直す」(6)	・説明	・文章から新しく得た情報をもとに、自分の考えを広げる。
		31	・助言を自分の文章に生かそう(6)	・討論	・話し合いの目的や話題を理解し、流れを踏まえた発言の仕方を学ぶ。
		32	・助言を自分の文章に生かそう(4)	・鑑賞文を書く	・読み手にわかりやすいように、根拠を明確にし、構成を考えて鑑賞文を書く。
	1	33	・「竹」(1)	・詩	・表現の特徴を捉え、音読する。
		34	・文法2(3)	・文の組み立て	・文中の語句の役割について学習する。
35		・「秘守三代」(1)	・読書に親しむ	・ノンフィクションや伝記などを読んで、自らの生き方や将来について考える。	
36		・漢字2(1)	・漢字の音訓	・音読みと訓読み、またその違いについて学習する。	
37		・書写(5)	・硬筆	・名文を書き、字体、バランスを学習する。	
2	38	・書き初め(2)	・毛筆	・書き初めの見本をもとに字体のバランスに注意して書く。	
	39	・「少年の日の思い出」(8)	・小説	・作品を読み、登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを持つ。	
	40	・言葉3(1)	・さまざまな表現技法	・比喻や体言止めなど、文章中で使われる表現技法について、その役割について学習する。	
	41	・漢字3(1)	・漢字の成り立ち	・漢字の成り立ちを学習し、それぞれの漢字がどのように成り立っているかを学習する。	
	42	・印象深く思いを伝えよう(5)	・説明、創作		
3	43	・文法3(5)	・文の組み立て	・自分の見つけた価値を、相手の心に届けるために工夫する。	
	44	・一年間の学びを振り返ろう(6)	・説明	・文中の語句の役割について学習する。	
	45			・文章を通して考えを広げ、自分の意見を文章にする。	
	46	・「ぼくがここに」(3)	・詩	・詩の中の言葉や表現を、作者の思いを想像しながら読み味わう。	
	47	※()内の数字は配当時間を表す。			

令和4年度 年間授業計画【 国語 】

教科名	国語
学年（年間授業時数）	第2学年（140時間）
使用教科書（出版社）	『国語2』（光村図書）
使用副教材（出版社）	「国語の学習2」（明治図書）「イラストで覚えるくりかえし漢字2」（秀学社） 「漢字のトレーニング」（浜島書店） 「つまづかない文法の学習」（新学社） 「つまづかない古典の学習」（新学社）「国語活用資料集」（新学社）
教科担当者氏名	和田 拓

1 教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

- (1) 自分のもので見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身につけさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。
- (2) 様々な材料をもとにして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身につけさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。
- (3) 目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身につけさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。

2 観点別学習状況の評価

観 点	評 価 規 準
主体的に取り組む態度	国語に対する関心を深め、国語を尊重し、進んで表現したり理解したりするとともに、伝えあおうとする。また、国語を学ぶことを楽しむ気持ちを養う。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えを豊かにしたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。 ・自分の考えを豊かにしたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。 ・目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。 ・他の学習者の文章を読むことや発表を聞くことを通して、国語表現の豊かさを知り、自分の執筆活動や発表活動に活かす。
知識・技能	表現と理解に役立てるための音声、語句、語彙、文法、漢字等について理解し、知識を身につけている。書写では、文字を正しく整えて早く書く。

3 評価方法(評価場面および評価資料)と評価の観点

各教科3つの観点について、その習得状況をA・B・Cの3段階で評価する。学級や学年の順位で評価するのではなく、教科で設定した目標やねらいを生徒一人ひとりがどこまで達成できているかを評価する

	観察法	作品法	テスト法	自己・相互評価法
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み方 ・学習活動 ・学習準備物(忘れ物) ・発言 ・質問 ・発表の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子（ノート） ・ワークシート ・提出物 (書き初め、俳句等の作品・ワークなど) ・作文 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内テスト (漢字テスト) ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子による振り返り ・自己評価シート ・相互評価シート
評価の観点	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に取り組む態度</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考・判断・表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知識・技能</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に取り組む態度</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考・判断・表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知識・技能</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に取り組む態度</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考・判断・表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知識・技能</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に取り組む態度</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考・判断・表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知識・技能</div>

令和4年度 年間授業計画【 国語 】

教 科 名	国語
学 年 (年間授業時数)	第3学年(105時間)
使用教科書 (出版社)	『国語3』(光村図書)
使用副教材 (出版社)	「よくわかる国語の学習3」(明治図書)「たびたび漢字練習帳」(正進社) 「模擬トレ5」(正進社)
教科担当者氏名	藤谷 裕也

1 教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

(1) 自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。

(2) 様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。

(3) 目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。

2 観点別学習状況の評価

観 点	評 価 規 準
主体的に取り組む態度	国語に対する関心を深め、進んで話し合ったり、工夫して書いたり、読書したりして、生活を向上させようとする。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自分のものの見方や考え方を深めて、目的や場面に応じ、説得力のある表現の仕方に注意して話したり聞き取ったりする。 様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにし、論理の展開を工夫して、説得力のある文章を書く。 目的や意図に応じて文章を読み、書き手の論理の展開の仕方をとらえて内容の理解に役立て、自分の意見をもつと共に、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する。
知識・技能	音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する基礎的な事項や国語の特質について理解し、知識を身に付け、日常の言語活動を振り返り言葉のきまりについて気付く。書写では、楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解し、字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮し、読みやすく速く書く。

3 評価方法(評価場面および評価資料)と評価の観点

各教科4つから3つの観点について、その習得状況をA・B・Cの3段階で評価する。学級や学年の順位で評価するのではなく、教科で設定した目標やねらいを生徒一人ひとりがどこまで達成できているかを評価する

	観察法	作品法	テスト法	自己・相互評価法
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み方 学習活動 学習準備物(忘れ物) 発言 ・ 質問 発表の様子 	<ul style="list-style-type: none"> 授業ノート ワークシート 提出物(書き初め、俳句等の作品・ワークなど) 作文 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価シート 相互評価シート
評価の観点	主体的に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能	主体的に取り組む態度 思考・判断・表現 知識・技能

4 年間学習計画

期	月	週	単元・教材名	学習内容	学習のポイント
前期	4	1	「世界はうつくしいと」(2)	・詩	・作者の思いを捉え、表現の特徴を生かしながら朗読する。
		2	「握手」(4)	・小説	・登場人物の言葉やエピソードからその人物像を捉え、内容を理解する。
		3			
		4			
	5	5	「学びて時にこれを習ふ」(5)	・漢文	・孔子の考え方を自分たちの生活と比較して考える。
		6	「作られた「物語」を超えて」(5) 文章の種類を選んで書こう(4) 熟語の読み方(2)	・論説	・文章における具体と抽象を捉え、文章の構成を評価する。
		7		・文章構成	・自分が伝えたいことをよりわかりやすく表現する。
		8		・漢字	・音読み、訓読みとその組み合わせについて学習する。
		9			
	6	10	説得力のある構成を考えよう(3) 実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう(3)	・スピーチ	・より相手に伝わるように文章を組み立てる。
		11		・情報	・メディアの特徴を知り、情報発信の意義と注意点を理解する。
		13			
	7	14	「俳句の可能性」「俳句を味わう」(4) 言葉を選ぼう(1) 「挨拶」(2) 和語・漢語・外来語(1)	・俳句	・筆者のものの見方や感じ方、表現のしかたなどを読み味わい、俳句の世界に親しむ。 ・言葉の性質を知り、もっと伝わる表現を目指す。 ・詩に表現されている内容と現実の世界の在り方とを対応させながら読む。
		15		・言葉	
		16		・詩	
		17		・言葉	
	後期	9	18	読書を楽しむ(1) 「故郷」(6)	・読書
19			・小説		・情景や人物を描写する語句や表現に着目し、登場人物の心情や作者の意図を読み取る。
20					
21					
10		22	慣用句・ことわざ・故事成語(1) 聞き上手になろう(1) 【推敲】論理の展開を考える(2) 「人工知能との未来」「人工知能と創造性」(4) 多角的に分析して書こう(4) 議論]話し合いを効果的に進める(1) 合意形成に向けて話し合おう(3)	・言葉	・慣用句、ことわざ、故事成語の意味や使い方を学び、日常生活に生かす。 ・相手の言いたいことや話の展開を予想しながら聞き、質問をする。 ・客観的な視点から目的や意図に応じた文章かを確かめて推敲する。 ・論理の展開と筆者の主張を捉え、自らも自分の考えを持つ。
		23		・話す	
		24		・論理の展開	
		25			
11		26	「人工知能との未来」「人工知能と創造性」(4) 多角的に分析して書こう(4) 議論]話し合いを効果的に進める(1) 合意形成に向けて話し合おう(3)	・論説	・客観的に対象を分析し、説得力のある批評文を書く。 ・話し合いを円滑に進めるために必要な視点をもつ。 ・社会の中から課題を見つけ、その解決に向けて互いの考えを生かし合う。
		27		・批評	
		28			
		29			
12		30	書写(10) 「初恋」(2)	・硬筆、毛筆	・楷書と行書に親しみ、漢字とひらがなを調和させて書く。
		31		・詩	・言葉の響きやリズムを味わいながら音読する。
		32			・和歌を読み味わい、昔の人の心情や情景を読み取る。
1		33	「古今和歌集仮名序」「君待つと」(6) 「夏草」(4) 「温かいスープ」(4) 情報を読み取って文章を書こう(2) 「誰かの代わりに」「わたしを束ねないで」(6)	・古文	・古文の文体の特徴に着目し、歴史的な背景や作者のものの見方を読み取る。 ・筆者の考える「国際性」を読み取り、自らも自分の考えをもつ。 ・グラフから情報を読み取り、論理の構成に注意して小論文を書く。 ・筆者のものの見方や考え方を捉え、これからの自分の生き方について考える。
		34		・古文	
	35				
	36				
2	37	情報を読み取って文章を書こう(2) 「誰かの代わりに」「わたしを束ねないで」(6) ・問題演習(5) ・漢字のまとめ(2)	・小論文	・学習の総まとめとして、また入試対策として問題演習を行い、実力を定着させる。 ・中学校で学習した漢字の総まとめを行う。	
	38		・随筆、詩		
	39		・漢字		
	40				
3	41	・文法のまとめ(3) ・3年間の歩みを振り返ろう	・漢字	・中学校で学習した文法の総まとめを行う。 ・3年間の学びを振り返りながら自分の考えを深めてまとめ、発表しあって学び合う。	
	42				
	43				・文法
	44				・発表・意見
			※()内の数字は配当時間を表す。		